

発行・編集

伊達市企画財政部企画課
 ☎ 0142-23-3331 内線238・239
 FAX 0142-23-4414
 ✉ kouhou@city.datate.hokkaido.jp
 〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

Close up だて



解説員の皆さん(左から上野さん、渡邊さん、松枝さん)

— 穏やかなほほえみで 雛人形たちが出迎えます —



市開拓記念館



館内に展示されている雛人形

3 月3日はひな祭り。日本全国でさまざまな催しが行われています。
 平安時代には川へ紙で作った人形を流して穢れを払う「流し雛」、江戸時代に入ると飾られるようになった美しい「雛人形」、現代では女の子の節句「ひな祭り」の主役「飾り雛」、と華やかに進化しました。
 北海道内ではいろいろな表情の雛人形を一度に見ることができ、伊達市開拓記念館です。
 ここでは、雛人形のほか伊達市に伝わる大事な文化財も展示され、同館解説員の上野眞里子さん・渡邊久美子さん・松枝宏治さんが、訪れた方に展示品やまちの歴史に関する説明を担当しています。
 収蔵品の価値について尋ねると「入植時に持ち込まれ、代々大事に受け継がれて今も残っていると

いうところに価値があります。当時、寒さや貧しさなど厳しいことが多く、心の慰めとして大事にされてきた、その歴史が尊い。」と先人たちの「思い」が最も大事なことだと解説員の皆さん。
 また、本州の太平洋側では戦災などでこれほどの品がまとまって残っていることも少なく、本州や海外から来館されたり、なぜ北海道に伊達という地名の場所があるの不思議に思う方もいらっしゃるとのこと。
 「雛人形以外にも北海道では貴重な調度品もあるのでぜひ訪れて展示物で歴史を感じたり、楽しんでほしい。」
 気持ちよく喜んで帰ってもらえるようにと、来館者に寄り添った説明を心がけている皆さん。
 この機会に伊達市の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

として保存しましょう

表紙のはなし



2月9日、「おおたき国際スキーマラソン」が行われました。小さな子どもから年配の方までの老若男女の出場者の方々が、種目は違えど、ほぼ楽しそうに(時々つらそうに)スキーコースを駆けぬけました。
 ゴール後には、冷えた体をいやす恒例の「きのこ汁」が体を温めてくれたようです。

楽画記

■冬真っ盛り！しかし、虚弱体質の僕は今季風邪をひいていません。例年になく「緊張感」を持って過ごしていることが理由。その緊張感の相手は、1週間以上スキーができない「無念さ」、いや妻の機嫌が悪くなる「恐怖感」かも？！2月15日現在、ホームゲレンデのルスリリゾートへ通うこと23回。緊張感とても大切です！(し)
 ■広報の仕事をして、物を作っていく大変さがわかりました。読者の方に見やすく、分かりやすくするにはどうすればよいのかも悩みました。そして違う角度から物を見て考えるという頭の柔軟さが大切なことを学びました。来月からは、読者側になりますが、今までは違う目線で広報紙を読むことになりそうです。(わ)
 ■スキーを通して一家回帰ね！とリフトへの恐怖を押し殺し頑張り続けた私に襲い掛かった「腰痛」。何をしてもしない日々、治ってもいつまたなるかとの不安が続きます。2月15日現在、スキーへ行った回数はたったの3回。あれ？こんなはずじゃなかったのに。ちなみに(し)さんは、多すぎだと思います。(と)